

仙
北
市

市議会 だより

平成23年11月1日 No.24

主な内容

仙北市議会 9月定例会	2～3
一般質問	4～10
常任委員会	11～13
平成22年度企業会計決算審査	14
市立角館総合病院移転建設の用地案	15
議会のうごき・人事案件・控室	16

9月定例会

みんなで力を合わせて頑張ったよ
～笑顔の綱引き風景～ (角館保育園の運動会より)

第5回 仙北市議会 9月定例会

平成23年度
仙北市一般会計補正予算
3億4,662万円を
採決の結果19対2で可決する。

仙北市産業振興基本条例に対する修正動議が
仁政クラブより提出され、採決の結果賛成
11名、反対9名で可決する。

企業会計決算の認定 について

仙北市病院事業会計決算、温泉事業会計決算は、全会一致で、水道事業会計決算は賛成多数で可決する。

又、議会最終日追加による一般会計補正予算。

◎子供手当システム改修委託料。 399万円

◎秋田県消防団員等公務災害補償組合負担金。

1,748万円

◎6月に発生した災害復旧事業費、林道、河川。

3,194万円

合計5,342万円は全会一致で可決する。

9月定例会の主なもの

◎震災後の経済対策。

大震災から半年、風評被害などにより観光産業が受けた影響は、商業、農業へも波及し、全体の回復は鈍いと感じている。

夏場は個人客は戻りつつあるが、団体客はまだかかりそうである。

そんな中で角館の祭は21万8,000人と昨年を1万人上回っている。

又、田沢湖高原温泉郷では、名付けて「オモテナシ3兄弟」のマスクトキヤラクターを発表、観光地として元気を取り戻すために頑張っている。

◎農畜産物等の放射性物質調査について。

米については、秋田県が独自に行う収穫前調査と、国が示した枠組みで収穫後調査の2段階調査で対応する。

野菜については、県がJA等の団体が自主的に測定するための経費に助成することとしている。

仙北市産米について、県の検査結果は9月17日現在放射性セシウム134、137、とも不検出の判定がされている。「不検出」とは放射性物質が存在しない、又は定量下限値以下を示す。

◎台湾訪問について。

田沢湖と台湾高雄市の澄清湖は姉妹湖締結後24年が経過し、これまでの謝意を伝えるため表敬訪問をする。前々から話があった玉川温泉と台湾の北投温泉との温泉提携

協定の調印式も実現した後、相互交流を深め観光客の誘致、北投石の研究や医療分野での協力を約束する。

◎第2次仙北市行政改革大綱の策定について。

市では「徹底した行政のスリム化」「市民と行政の協働による地域運営」に取り組んでいる。

しかし、扶助費等義務的経費の増加により、厳しい財政運営が続いているため、更に効率的な市政運営のための行政改革大綱を策定する。

◎市立角館総合病院の用地選定について。

病院建設用地選定委員会は、角館総合病院の建設用地候補地として

・ 県立角館南高校敷地

・ 落合地区

・ 旧角館東小学校敷地

・ 岩瀬下夕野地区

以上の4箇所を候補地として答申する。

◎一般会計補正予算

歳出の主なもの

◎県民税未払金精算支払費。

市県民税等の決算額と調定額の乖離について県

民税の払い込み不足している額は、税務課の調査結果を不足している額と認め、補正予算に計上。

393万円

◎病院事業会計補助金。医師1名分の修学資金。

1,040万円

◎認可保育園管理費。市内8カ所の認可保育園に発電機8台と屋根修繕費。

421万円

◎災害対策総務費。備蓄食料3,200食分と発電機13台、衛星携帯電話1台。 556万円

◎政策転換対応型農業支援事業費交付金。

仙北市の重点作物（アスパラ、枝豆、ホウレン草等）の作付に助成。

1,028万円

◎農産物安全確保緊急対策事業費補助金。

仙北市の戦略作物（麦、大豆、そば等）及び野菜等の放射能汚染の有無を検査機関へ依頼する経費の助成。

210万円

◎農地排水対策事業費。

内水被害の常襲地区（生保内小杉沢地区、小松本町地区）排水フレーム等。

1,190万円

◎アイリスインフォメー



女性初本会議場にて答弁

シオン事業費（緊急雇用）。アイリスミュージアム推進事業費。
アイリスミュージアムをフォレイク2階等に設置するための費用と案内等の人件費2名分。
552万円

◎局所防災事業費。

上松木内鳥屋森林道方面復旧工事。973万円

◎冬期交通対策費。

除雪等委託料他。

1億7,782万円

◎農業用施設災害復旧事業費。

農地、農業用施設災害復旧対策の補助金130カ所。

2,600万円

◎公共土木施設災害復旧事業費。

河川、市道他、松木内河川公園の土砂、流木の処理費と芝生の復旧工事。

1,554万円

9月定例会

若手議員修正案を提出

今回のおもいきった行動が

議会を活発にする

仙北市は産業振興に関する基本事項を定め、市内すべての産業（農業分野も含）を応援することを目的として『仙北市産業振興基本条例』案を提出する。

この議案に対して仁政クラブより修正動議が提出される。

修正案の内容は、仙北市の現状認識、基本的な計画の策定、委員会のあり方、見直し規定の4点である。いくら基本条例といえども具体性に欠けるものでは作った意味がない。常にスピードと時代にあつたサポートをするために一定期間毎に検証し、見直しを定めることを盛り込んだ提案がされる。

修正案に対して討論

阿部議員（反対討論）
本来条例の成り立ちか

らして全会一致で可決すべきである。修正案は字句の追加と一部分の修正であり運用で定めることで、当局案と修正案はなんら違っていないため修正案には反対である。

高橋議員（賛成討論）

修正案は低迷している市内経済が発展する意気込み、変化に対する柔軟な対応、見直し規定による具体性を備えた案であり積極的に産業振興に向けて実行することができ修正案であり賛成する。

採決の結果賛成11名、反対9名で可決する。

（田口（喜）記）



主な案件の議決結果／議員賛否（平成23年 第6回 仙北市議会定例会（招集日：9/1 最終日：9/27））

凡例：賛→賛成、反→反対（議長は、法律に定める特定のケース以外では表決をしないことになっています）

議案番号	会派及び氏名等	議決月日	議決結果	民 政 会 議				仁 政 ク ラ ブ			翠 霧 会			新 星 会			日 本 共 産 党		会 派 に 属 さ ない 議 員					
				伊藤 邦彦	阿部則比古	狐崎 捷琅	門脇 民夫	佐藤 直樹	黒沢 龍己	田口 寿宜	安藤 武	小林 幸悦	藤原 助一	田口 喜義	荒木田俊一	青柳宗五郎	高橋 豪	八柳良太郎	佐々木 章	高久 昭二	平岡 裕子	熊谷 一夫	小田嶋 忠	稲田 修
議案第85号	仙北市産業振興基本条例制定について（修正案）	9/27	修正可決	反	反	反	反	賛	賛	賛	賛	反	反	反	反	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	退席	賛
議案第86号	仙北市基金条例の一部を改正する条例制定について	9/27	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	退席	賛
議案第87号	仙北市市税条例の一部を改正する条例制定について	9/27	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	退席	賛
議案第88号	仙北市災害甲斐金の支給等に関する条例の一部を改正する条例制定について	9/27	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	退席	賛
議案第89号	仙北市産業振興条例の一部を改正する条例制定について	9/27	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	退席	賛
議案第90号	平成23年度仙北市一般会計補正予算（第6号）	9/27	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	退席	反
議案第91号	平成23年度仙北市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	9/27	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	退席	賛
議案第92号	平成23年度仙北市介護保険特別会計補正予算（第1号）	9/27	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	退席	賛
議案第93号	平成23年度仙北市生保内財産区特別会計補正予算（第2号）	9/27	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	退席	賛
議案第94号	平成23年度仙北市病院事業会計補正予算（第2号）	9/27	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	退席	賛
議案第95号	平成23年度仙北市水道事業会計補正予算（第2号）	9/27	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	退席	賛
議案第109号	平成22年度仙北市病院事業会計決算認定について	9/27	原案認定	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	退席	賛
議案第110号	平成22年度仙北市温泉事業会計決算認定について	9/27	原案認定	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	退席	賛
議案第111号	平成22年度仙北市水道事業会計決算認定について	9/27	原案認定	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	賛	賛	退席	賛
議案第115号	平成23年度仙北市一般会計補正予算（第7号）	9/27	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛

一般質問



- 若者に対する雇用対策、定住対策は
- 子育ては大変、支援策は
- 待機児童を一人残さずなくせ

新 星 会 高 橋 豪 議 員

若者に対する雇用定住対策は

質問 高校や大学を卒業しても地元での就職が難しく、親も帰ってきても仕事が無いので帰ってこなくても仕方がないという悲しい状態が続いている。

未来のある若者がいなくなつた町には、未来がないわけである。

若い人たちが相変わらず町を離れていく現状をどう見ているのか。

答弁 地元で就職を望む若者が、その意思に反して地元を離れなければならない状況については、とても残念で申し訳なく思っている。

県、市、民間企業の連携などで改善したい最優先の課題と考えている。

質問 市の高齢化がこのまま進むと町全体が限界集落になる可能性がある。

高齢化社会をこの先支えていくのは若者であり、将来にわたりこの町を残していくためにも、若い人の声に本気で耳を傾けて、若者に対する思



頑張り子育て世代 待機児童を一人残さずなくせ!! (市内保育園運動会)

い切つた政策を打ち出し、ていく必要があると思うが見解を伺う。

答弁 次の時代の担い手の声に耳を傾けない行政は、あつてはならないと思つている。

定住の法則による循環が始まる最初の一步は雇用対策と考える。企業誘致については、企業側の希望と当市の状況が合致せず実現に至っていない。

ただ、企業に対する支援については昨年からは在まで店舗の拡張一件、新規開業二件の申請があり、今後の見込みもある。

質問 所得を10%上げることがメイン公約に

掲げられていると思う。

門脇市政も2年ほどになるが、この間をどのように分析しているのか。

答弁 今、言えるのは所得を上げるために多くの施策を同時展開している状況である。

今年の12月にマニフェスト全体の検証を行い、その際に雇用と所得についても検証する。

子育ては本当に大変支援策は

質問 子供をどんどん増やせと言われるが、子育ては本当に大変だ。

子供を3人、4人と多く抱える世帯ほど、少子化に歯止めをかけていることになるが、こうした

世帯ほど子育てには金もかかるし、手間暇もかかる。3人、4人と子供がいてがんばっている家庭を応援、支援することが、行政に求められていると思うが、応援してい

くつもりはあるのか。

答弁 重要な課題を克服するためには最善を尽くさなければならぬと思つている。

少子化問題は国家の大問題と捉えている。ただ、国に任せていけばよいということではなく、市は女性の社会進出を支えながら、共働きや核家族化が進む中で「次世代育成支援行動計画、後期計画」に基づき国・県から助成を得て、多くのメニューを展開している。

待機児童を一人残さずなくせ

質問 待機児童問題についてはこれまで議会

でも幾度となく議論されてきた。施政方針では解消するとは述べているが、現状は全く変わらな

い。この状態をどう捉えているのか。

答弁 今もその気持ちに全く変わりはない。待機児童がある事は間違いない事実であるが、一方では空きがある施設もある。これをうまくマッチングさせれば、大きく改善される可能性がある

ると考える。そこで、通常保育、一時保育事業に対して、送迎の支援等も検討している。

医療費、小学校卒業までは無料に

質問 子供の医療助成の範囲を、現在の小学校入学前から小学校卒業までに拡大できないかどうかについて以前から何度も議論してきた。

検討する旨の答弁はされているが、実現の可能性はあるのか伺いたい。

答弁 福祉医療の小学校までの助成対象拡充は、少子化対策や定住対策の重要な施策の一つと確信している。

県では子育て支援策を見直す方針であり、基本的な部分は全県足並みをそろえて実施したいので、市町村において検討するよう話があった。

最低限小学校卒業までは拡充してほしい旨を県に要望する。この制度が全県的になされれば、検討してきた一般財源の半分で行えることになる。

(小林 記)

一般質問



○門協市政運営の基本姿勢を再度問う

稲田 修 議員

行財政改革について

質問 仙北市行政改革大綱で、第1次と第2次の違いは何なのか。第1次で総括されたものを第2次で盛ったものなのか。

答弁 第1次行政改革大綱では、改革項目46項目の内40項目、比率にして87%の様々な行政改革に取り組んで来た。一定の成果を挙げた項目もあるが、十分な取り組みに至らなかった事もあり、反省点や実施に向けた課題等が残された。

第2次行政改革大綱では引き続き、行財政運営の継続的な見直しを進める為の姿勢を堅持し、これまで取り組みに至らなかった項目を盛り込み、市民との協働による効率的な市政運営を念頭にしている。

質問 市長の公約実現の為、第2次行政改革大綱で挙げたものは何か。

答弁 持続可能な行財政運営、質の高い行政サービスの提供、市民協働のまちづくりの3つ

基本方針に基づき、健全な財政運営の推進、効率的な事務事業の推進、効果的な組織機構編成と定員適正化、職員の能力開発と人事管理、市民協働の行政経営の推進と5つの重点項目を掲げた。

改革の実効性を高める工夫を重ね、市民、職員の理解をいただきながら、行政改革に力強く取り組んで行く。

社会資本（インフラ）整備について

質問 全業種が不況下で将来像の青写真を作成し、色々な事業を実施する事により、自主財源を確保する事が必要と考える。実質公債費比率をあまり気にせず、公共事業を増やしながら雇用の場の確保を作りあげ、積極果敢に攻めの地域づくりを期待するが、市長の見解を伺う。

答弁 平成22年度の実質公債費比率は19・2%で、起債を発行する許可が必要な水準域を超えており、危険な水域に達している状況にある。合併特例債も基本的に地方債であるから、計画的な運用が必要であると考える。

建設事業については否定的な考えは持っていない。ただ、今までの状況では行かないという事は、各経営の方々、スタッフの方々も異口同音に話をしている。異業種への転換という事も積極的に応援をしながら、雇用の確保力を減退させないよう努力している状況である事を理解いただきたい。

質問 市の社会資本整備に関して、市民に青写真を示し進めるべきと考えるがどうか。

答弁 新市建設計画における主要事業で、企業会計を含み74項目の事業があり、合併後策定された仙北市総合計画に継承された。

事業規模から、あらかじめの長期の年次計画に基づき進めている。事業の実施に当たって、毎年行う実施計画のローリングの中で緊急性、公平性、公益性を考慮し、財政事情等も踏まえた事業実施計画について、議会にも提示しながら理解をいただいていると理解している。これまでの経緯を大切にしながら、時代の課題に適切に対応したいと考えている。



市民との協働による効率的な市政運営を目指す

市民サービスと人口減少の対応について

質問 職員の異動があまりにも激しく、市民が顔を覚える前に変ってしまふ。職員も自身を把握できていないのが現状ではないかと考える。部長及び課内との意思疎通はしっかりしているのか。

答弁 情報が共有する環境は整えているが、様々な事情により要求に答えられない面がある事については反省をしている。

質問 人口減少に対する対応について、どう考えているのか。

答弁 そこまで支援をすべからず、多様な業種、職種、ビジネスを小さく生んで大きく育てる、そんな環境の整った仙北市になりたいと思う。

(田口(寿) 記)

一般質問



○角館高校、角館南高校の統合に向けた市の対応は！

議員 幸悦 小林 翠

角館高校、角館南高校の統合に向けた市の対応は！

質問 地域に根ざした特色ある学校にしたい。ため県教育委員会にどのような要望してきたのか。

また、基本構想にこれが反映されているのか。

答弁 22年8月に県知事、県教育長に提出しています。①統合高校は定時制独立校舎を有する1校2校舎の形態による②全日制課程は1学年普通科7学級とし、進学コースやビジネス、ものづくり、語学、観光、芸能芸術等多様なコース設定の上、複数の専攻科の設置③定時制課程はフリースクールの空間を備えた昼夜2部制、独立校舎④定時制独立校舎に県立大曲養護学校の小学部、中学部の分教室設置⑤早期に、安全・安心・快適な充実した環境が確保できる場所として整備⑥両校舎の老朽化の改善対策や新たな施設整備については再編整備のスケジュールと切り離し、早急な

対策が講じられる様にお願いしている。

質問 新高校をより充実した望ましい高校にするための支援を考えているのか。

答弁 県、統合高校側との話し合い、できる限りの支援を行っていきたい。

質問 校舎プランの要望、定時制・養護学校分教室併設についての要望はどうなっているのか。

答弁 整備計画案では全日制1学年6学級で進学クラス、情報ビジネス系、家庭系、芸術美術系等、多様なコースが設置される予定である。定時制課程は普通科、



現在の角館南高校校舎



現在の角館高校校舎

昼夜2部制の2クラスの予定である。全日制校舎は現角館高校の校舎を25年から26年度にかけて耐震改修工事、一部増築工事を行い、27年4月に使用開始の予定だ。

定時制課程は27年度に現角館南高校校舎を耐震改修工事、養護学校分教室については校舎建築工事を行い28年度に新校舎使用予定である。

要望は概ね受け入れられたと考えている。

質問 市と市民が一体となった参加・協力していく協議会の設置を求める声がある。早期に設置し、意見・要望を早期に取りまとめる必要があるのではないか。

答弁 今後、地域や同窓会から様々な要望が出る事が予想される。同窓会、地域、市が連携し、仙北市として統一した意見や要望をまとめていくために10月3日に協議会の設立会議を予定している。

市立角館総合病院について

質問 市立角館総合病院の26年10月頃の開院に向け、建設用地の選定から、多くの作業があり時間的に大変厳しいと思うが予定通りの開院は可能なのか。

答弁 用地取得に伴う事業認定をはじめ、建築場所によっては都市計

画関係の事務作業や税法上の手続き等、諸般の事情で若干の遅れはあるかもしれないが、あくまで26年10月開院を目指し鋭意努力していく。

桜の花芽の食害について

質問 今年の鈴木内川の堤防の桜は、野鳥ウソによる食害が大変で桜の花は無残な状態であった。

市民や観光客に喜ばれる桜の花を咲かせるためにもウソの対策が重要と思うが対策はあるのか。

答弁 近年は自然保護熱の高まりや、住宅地に近いため猟友会による駆除は行っていない。近隣の桜の名所も大変苦慮している状況である。

人海戦術による追い払いを行っている。

施肥や剪定、土壌改良等で樹勢回復に努め花芽を多く確保する工夫をしている。

関係機関と協議し、より効果的な対処をし、皆さんに喜んでいただけるようにしたい。

(荒木田 記)

一般質問



- 種苗交換会開催について
- 中川保育所の今後について

仁政クラス 黒沢 龍己 議員

市としての取組状況について

質問 種苗交換会の質問は3回目であり、平成25年の開催チャンスと逃すと18年後まで待つしかない。どう取組むのか。

答弁 開催の概要について、主催者であるJ A秋田中央会への聞きとり、また新しい開催地の「にかほ市」、「北秋田市」での調査を行っている。

9年毎に順番が回ってくる仕組みになっており最終決定は、前年の種苗交換会会期中の、J A秋田中央会の理事会で決まる。

平成25年には県南の大仙・仙北地区が開催地となるのでこの時期の可能性を検討している。

質問 さまざまな視点から大変意義あることだが課題も多くなる。

答弁 何より大仙市との調整が重要である。仙北市開催の意思表示は、大仙市と調整後、今年度横手市で開催される種苗交換会終了から、年度内には、J A秋田お

こへ伝えなければならぬと思っている。

相当周な準備をして置かなければならない事から、出来るだけ早い時期に、しっかりとした開催に向けての、専門的なセクションを設けるタイミングを考えている。

特に初めて開催する場合、会場を集中型、分散型のどちらにするか、学校施設を使用となると、一年以上前から使用許可の必要もある。

また協賛型の実行委員会方式か、市を中心とした事務局方式にするか、今後、具体的な検討に入らなければならない。

質問 大仙、美郷の首長同士の話が進まない、開催出来るものではない。話し合いの場を設けているのか。

答弁 現在では、大仙市長、美郷町長には、仙北市で開催出来るなら有り難いと言う旨の話に止めている。

会場等、さまざま開催条件の見込みが付かないままでの相談では無責任である。この後、丁寧に協議をして行く。

質問 主催のJ A秋田中央会、地元J A秋田お

おはこの協力が無ければ到底開催は無理であることから、中央会会長、お

おはご組合長との話し合いはどうなっているのか。

答弁 J A中央会には種苗交換会開催の可能性について相談している。

大仙市等との調整が必要と、地域の熱が一番の条件だとの説明を受けているので、開催意向は伝わっているものと理解している。

J A秋田おはご組合長には、開催に向けた仙北市の意向は伝えてある。

J A秋田おはこの組合員の皆様からも理解をいただき、仙北市で開催出来るよう積極的に取り組むつもりである。

中川保育所の今後について

質問 老朽化の進んでいく保育所の建て替え計画はあるのか。

答弁 現在、市立保育所幼稚園の在り方検討委員会の設置を進めており、第1回検討委員会を

9月中旬に予定している。

中川保育園は3

番目に古い保育園であり、平成24年度には市

としての方針を明確に出来ると考え

質問 今後の園児数はどのよう

答弁 現在の園児数38人のうち、地域内は25人、地域外から13人の入園であり、今年

の地域内申請児は3人である。地域のゼロ歳から3歳児が非常に少なく、この

状況は地域外からの入園等を考慮しても、将来の園児数は現在より下回った数で推移せざるを得ない。

質問 未満児を受け入れるにあたっての条件等はありますか。



平成24年度には市としての方針を明確にする中川保育園

答弁 未満児とは、ゼロ歳児、1歳児、2歳児であることから、当時の状況では中川保育園は建設当初から未満児の受け入れは考えていなかったと思う。

ゼロ歳、1歳児を入所させる場合は、乳児室、匍匐室、医務室、調理室、便所と哺乳瓶の滅菌する場所が義務づけられている。外には面積要件もありゼロ歳児の受け入れが出来ない状況にある。

(安藤 記)

一般質問



○市長のマニフェスト一部見直しについて
○市民生活を守る市政について

日本共産党 高久 昭二 議員

市長のマニフェスト一部見直しについて

質問 市長の掲げるマニフェスト、所得10%アップは市民全てが期待するものであるが東日本大震災後、景気の冷え込みが著しく、現時点では、この公約を当面見合わせ、取り下げる考えはないか。

答弁 市民の10%所得アップは、私のマニフ

エストの中核をなす部分で、取り下げるといふ気持ちは持っていない。

10%に限らず、所得を高めるといふ政策は、仙北市では絶対欠かしてはいけないし、これを目標として取り組まなければ、モチベーションが高まらないという分野もたくさん見受けられる。今、この大変厳しい状況の中で、このパーセンテージを取り下げることが、逆に皆さんの

熱意を喪失する可能性があると危惧している。この目標達成に向けて頑張っていきたい。

質問 木質バイオマス施設の改修工事着手前に、当初の目的にかなうように改修する

旨の確約書を月島機械株式会社と取り交わさなければならぬのではないか。又、改修しても当初の目的が達成できない場合は、月島機械が同施設を引き取り、支払いした金額を

市に返還してもらっても視野に入れて交渉すべきでないか。

答弁 木質バイオマス施設の改修については改修内容、結果についての書類調整作業をしている段階である。

改修計画については、大学の先生も加えて、このプランが有効なのか協議している。そこでは、各技術者、前回この施設に対してさまざまな意見をいただいた方々からも協議をいただき、この改修であれば、当初の目的を達成できるとの意見をいただいている。

市民生活を守る市政について伺う。

質問 総合産業研究所は

研究開発、生産、市場開拓、販売等を全て市研究職員が担当され、8名体制という大規模な組織であり、このまま実践して行く事がベターなのか。一部組織の見直しを行い市場開拓、販売等を独立させ、近い将来市内外の関係研究機関や関係者とも連携を図り、市も一部参加する中で雇用創

出のため物産公社化する考えはないか。

答弁 総合産業研究所は市内の資源を最大限に活用できる仕組みづくりと、農林水産物の生産加工、販売を生産者が一連に行う六次産業化による商品開発、市場開発、流通過程への参画を目指し平成22年に設置した。

現在、地場産品の販路拡大による雇用創出事業を展開している。又、環境プログラムの開発と受け入れ地域のネットワーク化に着手して、地域の新たな雇用創出に向けて取り組んでいる。

研究所が試作段階から開発に携わった商品数は12品目で、商品化に至ったものについては随時販売になっている。

今後、農業を核とした農業経営資本をフルに活用し、現在の短期的雇用から、安定して継続できるような体制にと成長していくために、本市の農業の長期ビジョンを策定し、関係者が共通認識のもとで将来像に向けて、取り組めるようなベース

をつくりたい。

総合産業研究所の組織については、必要な形に絶えず変質、変革をしていくことが求められていると思っている。

質問 小学校6年生まで保護者の所得制限なしに医療費を無料化し、

県と共同実施した時にどのくらいの財源が仙北市では必要か。さらに、義務教育である中学校生徒徒についても、早い時期に無料化をする考えはないか伺う。

答弁 小学校6年生まで無料化を実施した場合の医療費は、2,200万円で、仮に県との共同実施した場合はこの半分です。中学生までの範囲を広げますと3,200万円の医療費となる。

県の医療費無料化制度の作りこみが、どの程度のスピードで進むか把握できない状況であるが、中学生までの医療費の無料化については、市としても少子化の歯止め対策保護者の財政負担の軽減を図る観点から重要な課題だと認識している。

(門脇 記)



医療費の無料化が待たれる小・中学生

一般質問



○自然エネルギーの活用による 地域の活性化について ○仙北市の防災について

民政会議 門脇 民夫 議員

自然エネルギーの活用による地域の活性化について伺う。

質問 東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故で電力不足が生じたため、国は今エネルギーの多様化と再生可能エネルギーである自然エネルギーの活用が求められている。そのため先月再生エネルギー特別措置法が国会を通過し再生エネルギーによる電力の買い付けを電力会社に義務づけた。

仙北市は、多くの水力発電所を初めとして風力地熱、バイオマス等の自然エネルギーの宝庫である。この豊富な自然エネルギーを、どのように活用し、市の活性化に結びつけていくのかをお伺いする。

答弁 私は選挙時お示したマニフェストで太陽光・風力・地熱・水力・バイオマスの活電・活熱で、環境型グリーン産業を観光産業に匹敵する主要産業に育成することを皆さんにお話している。その後、今年3月の

東日本大震災による原発問題で再生エネルギーの必要性はますます大きくなったと認識している。再生可能エネルギー特別措置法は平成24年7月1日から施行されるが買取価格と期間がどのようになるか市も注目しその対応を研究していく。

仙北市での自然エネルギーの活用は、平成19年2月策定の仙北市地域新エネルギービジョンによれば優先度の高いものは木質バイオマス、太陽光、水力発電となっている。中でも木質バイオマス発電は、各機関、業界からその期待が高まっている。森林、林業の活性化にもつながるものと考えている。

風力、地熱発電については詳細な調査を行なった実績がない。調査の方法、導入等も含めてどのようにするか今後検討することになっている。

質問 私が一番期待していた答弁は地熱発電についてである。仙北市には沢山の温泉がある。地熱発電には沢山の可能性が秘められていると思

う。例えば玉川温泉北側には鹿角澄川地熱発電所がある。この玉川温泉の本市側にも多くの温泉が岩盤から自噴している。温泉産業との競合とか国立公園規制等、実際に開発するためには障害になることが沢山あることも承知している。ただ、海外では5キロ6キロと深層部の熱を取り出すという技術も盛んに開発されている。県外では、国立公園の中にある松川地熱発電所、葛根地熱発電所、八丁原地熱発電所等がある。これらは環境庁から地熱発電の許可をうけている。

このように、やり方によつては規制をクリアしているところもある。この点について市長の考えをお伺いしたい。

答弁 一部の温泉の事業者の方々から地熱については十分な検討をしてほしいというお話があった。地熱発電に取り組むことで温泉流失に対する懸念と理解している。地熱発電は、今後、仙北市の産業振興に大きく寄

与する面で大変重要だと考える。是非、温泉関係者の方々にその思いを伝えていきたいと思つている。

質問 仙北市の地域防災計画の見直しの進捗状況についてお伺いしたい。

答弁 仙北市では、仙北市地域防災計画を見直し平成23年7月25日に秋田県知事も協議を行なっている。その内容は災害時の初動体制の見直し及び秋田駒ヶ岳火山砂防計画検討委員会の件についてである。一部指導を受け只今調整作業中である。

質問 市の管理する施設を義務付けされている施設があると思うがその施設での避難訓練実施状況

についてお伺いしたい。

答弁 市が所有する公共施設61か所、実施済回数が28回、延89回の訓練が行なわれる予定になつている。

質問 仙北市の国道、市道に架かる橋の耐震化率についてお伺いしたい。

答弁 仙北市内の国道・県道・市道にある橋の数は大小あわせて771か所である。橋の維持管理についてはそれぞれの機関で実施している。橋の場合は耐震補強のみに着目した計画は策定せず橋梁点検をし、長寿命化修繕計画を策定し工事実施することとしている。未実施のものについても早期実施を要望していきたい。

(狐崎 記)



鹿角市 澄川地熱発電所



湯沢市 上の岱地熱発電所

有望な自然エネルギーの地熱発電所
(出典：東北電力)

一般質問



○桜のウソ被害について ○「がんばろう仙北」震災後の 経済対策について

新 星 会 八 柳 良 太 郎 議 員

桜のウソ被害について

質問 今年の桜木内川堤及び古城山の桜については、花の出来が全くと言っていいほどよくなかった。全国各地から訪れる方々におもてなしをするにあたり、まずは素晴らしい桜を見て頂くことが何よりも大切と考える。ウソによりつぼみが食べられることが花の付きが悪い主な要因であるが、今後の対策を伺う。

答弁 古城山については、古くから頂いたオオムラ桜以外に手を掛けられていないのが現状である。また、桜木内堤に関しては、猟銃による捕獲が一番効果のある手段だと言われているが、市街地での発砲については、危険、騒音に伴う、自然保護団体からの抗議等の理由で、自粛している状況にある。今後は、桜見守り隊などを結成し、市民の力も借りて景観保全に努めたい。

質問 ウソ対策の例を挙げると、発砲行為に限らず、防鳥テープ、防

鳥ネット、電子爆音機などを利用しているケースもある。また、ボランテ

ィアを結成し、ウソが嫌がる黄色いジャケットを各人が着用して爆竹を鳴らすといった例も見受けられる。本市でも創意工夫をするべきではないか？

答弁 詳細を調査した上で積極的に検討を進めたいと考える。

「がんばろう仙北」震災後の経済対策について

質問 震災後市内経済は低迷しているが、特に観光産業については危機的状況にある。こうした影響を受け倒産した企業や、解雇または自宅待機されている従業員などは把握しているのか。

答弁 観光関連産業においては、震災の影響により団体観光客数が減少したままの状況が続いており、大変厳しい状況である。震災に関連した企業の倒産はないが、従業員の解雇者数はホテル・旅館等で6社で88名となっている。

質問 本市では震災後宿泊クーポンを発行するなどし、観光産業への経済対策を行ってきたが、このクーポン券等ほどの程度利用されているのか。

答弁 クーポン券は計31回目、2回目を合わせると、クーポン送付者1,000名の内440名が利用している。同伴者が377名いたので、合計817名が利用したことになる。また、3回目については年末まで利用可能だが、8月は12件と少なかつた。これは福島からの避難者の方々が、夏休みに宿泊施設を利用された関係上、一般の予約を受けられなかったことに起因する。しかし福島からの方々だけで、延べ1万5,000泊にもなり、大きな実績を残している。

質問 本市では震災後プレミアム商品券を発行して一定の効果を期待した。今後は市内にとどまらず、県外の方を主体に20%のプレミアムを付けるなどした商品券の発行は考えられないか。

答弁 外貨を獲得するため、市外からお客様を多く誘客しなければいけないという事は、全くそのとおりである。ただし、市民の税を市民以外の方々にサービスとして提供していいのかどうか、財政上の検討が必要と考える。今後協議したい。

質問 本市産業における第3次産業の比率は80%以上であり、こうしたことからすると、観光産業により力を入れて行くことが求められるが、本市においては観光に関連する統計についてはあまり把握されていないようである。観光に対する施策を抽象的なものから、より具体的なものにするためには、数値で把握していく必要があるがどうか。

答弁 そのとおりである。データをきっちり整理し、戦略を立てられる体制を整えたい。

(高橋 記)



震災後の深刻な経済被害から立ち直れ!! (角館 武家屋敷通り)

総務 常任委員会

■仙北市一般会計補 正予算(第6号)

9月定例会の委員会では、この補正予算に関する質疑が集中し、白熱した議論が展開された。主な質疑は次のとおりである。

本会議において総務常任委員会に付託された案件は、条例関係1件、補正予算2件の計3件である。

○第3セクターについて
花葉館と西宮家に対する債務負担行為補正の積算根拠は。

【答】 第3セクターの経営診断のコンサルタントからの中間的な報告による



経営の整理が検討されている第三セクター

と、花葉館は今まで、指定管理料としてはなかったが、市民の相当数が健康増進施設として利用されている結果を踏まえ、温泉部分の人件費として1,534万円、周辺の森林総合利用施設の維持管理に係る人件費として72万円、1年間で計1,606万円と積算したものである。

西宮家は、角館町の外の景観的な要素となっている蔵を維持管理して行く為の人件費、母屋の

人件費とを合せ、1年間524万円を指定管理料として積算したものである。

コンサルタントから、施設運営の公募にあたり、公共的な面については、一定の管理料が必要であるとの指摘を受け、市内の他の施設との整合性も考慮したものである。尚、計上している額は上限である。

○市長の出張旅費について

【問】 市長の出張旅費が補正計上されているが、出張後の報告はされているのか。また、業務に支障はないのか。

【答】 出張の機会は多くないが、夜間の出発により実質の行程を1日にするなど、できるだけ工夫をし、公務に支障がないように努めている。市長の政策的、政治的判断により、どうしても出張しなければならぬものもある。

報告については、文章ではされていないが、自身のブログで逐一報告されており、重要な案件は市政報告で述べている。

こうしたものを市長の報告とご理解いただきたい。

この件について、次の要望が出された。

【要望】 市長はできるだけ庁舎にいて、庁舎内部に目配りしていただきたい。

○諸費について

県民税未払金、精算支払費393万3千円に対しての考え方について、質疑が集中した。当局の答弁は次の3点に要約される。

- ・計上した金額は、自治体として県に支払うべき県民税の未払いの部分であり、速やかに精算しなければならぬ問題であると考へ、今回計上したものである。
- ・額は確定したもので、内部調査と調査委員会でも確認されており、県にも話してある。できるだけ早期に払わなければならないと考へている。
- ・今回の精算は、調定が乖離していた期間についても県民税・町民税ともに収入になっていた。その部分について県に支払われないまま、合併で仙

北市に引き継がれている為の精算である。現時点では、通常の税金を精算する手続きという考へ方である。

この件に関連し、次の質問が出された。

【問】 県民税未払金、精算支払費に係る利息・延滞金は発生するのか。

【答】 今後、県が判断する問題であり、現段階では市がどの位と言えぬ部分ではない。

本案に対して、賛成の立場から討論があった。

【討論】 県民税未払金精算支払費について、この問題の発端が、市職員から外部に情報が出たという噂がある事自体、残念な事である。今後は、公益通報の要綱に基づき取り扱ひの徹底と係る事態が生じないよう、業務の改善に取り組んでいただきたい。

採決の結果

付託された3議案について、全会一致で原案を可とすべきものとした。

(田口(寿)記)

教育民生 常任委員会

本会議より教育民生常任委員会に付託された案件は、議案5件と6月定例会で閉会中の継続審査となった請願1件である。

■議案第90号 平成23年度仙北市一般会計補正予算

●2款交通防犯対策費

問 街灯修繕費について今年度これまで修繕した数と補正で対応する修繕数はどれくらいになるのか。

答 6月までに72件の修繕を実施した。今年度の街灯修繕は合計288件を予定している。また高所作業車を使う場合が多くなっており、1件当りの単価が昨今より高くなっている。

●審査の過程で委員から、角館町の中には都市整備事業で設置された街灯があり、電球について、ほぼ10年間は切れることはない、とのことであったが、すでに球切れ故障してしまった街灯もあることから、維持管理については環境防災課であるが、都市整備課とも連携し、その対応について検討してほしい、との意見があった。

●3款民生費

問 認可保育園管理費で自家発電機を8台購入する予定であるが、どのくらいの規模の発電機なのか。

答 30アンペア以下のものであり、停電で真っ暗になった際に子供達が危なくないよう足元を照らす程度のものである。また冷蔵庫への対応も考えている。保育園全体をカバーできるものでなく、必要最小限の電気を確保するものである。

●9款消防費

問 災害対策総務費に災害時の備蓄食糧を購入する

予定になっているが、何食分を購入するのか、また全部でどのくらい備蓄しているのか。
保管場所については角館消防署の災害倉庫1ヶ所と聞くが、各地域に保管する必要はないのか。
答 備蓄食糧は拡充分2,900食と被災地支援で減少した分の300食を購入する予定で、全部で6,500食備蓄することになる。
保管場所については、今までは田沢湖・西木地区にも分散して保管して

いたが、食糧を保管するには不適切な場所であったこと、また管理がしやすいことから1ヶ所にしているが、災害を考慮した場合、備蓄食糧は各地域に分散して保管されていることが望ましいことから今後、保管場所について検討していく。

■議案第91号 平成23年度仙北市国民健康保険特別会計補正予算

問 昨年度の国保特別会

計は黒字であったが、今年度現時点での見込みはどうなのか。
答 昨年の11月頃から医療費が思ったより伸びていない状況が続いている。今のところ予算の範囲内であるが、これから冬を迎え、風邪・インフルエンザの影響でどうなるか分からないが、医療費の伸びが少ない状況であり現段階では予算の範囲内で大丈夫だろうと見ている。

■議案第94号 平成23年度仙北市病院事業会計補正予算

問 修学資金貸付金は、医師確保のため有効な制度だと思っているが、何年先までこの制度を継続するつもりか。

答 10年がかりの制度だと思っている。最低限、最初の人が医師として市立病院に来るまで続けたい。

問 継続審査 請願第1号家庭用LED照明購入費補助事業について

請願の内容が教育民生常任委員会のみ止まらないのではないかとの意見があり、引き続き審査が必要であることから、継続審査となった。

◎採決の結果

全議案、全会一致で原案を可と決定した。

(佐藤 記)



保管されている備蓄食料等（角館水防倉庫）

産業建設 常任委員会

◎議案第85号 仙北 市産業振興基本条例 制定について

問 事業者や経済団体が最大限の能力を発揮することが、産業振興の大前提と考えるが、この条例の制定主旨、制定後には具体的にどのようなことを実施するのか。

答 従来の産業振興条例ではカバーできなかった観光分野、農林業、畜産振興等各業態へのPR、誘致、促進、育成し、地域一丸となって産業振興に取り組むための条例制定である。

具体的な取り組みについては現在の事業を精査しながら、関係団体の要望を聞き、要綱等の必要性も含めて検討していきたい。



産業振興に更なる力を!!

この条例はあくまでも基本条例であり基本的な考えや理念を明文化したものである。

問 条例の検討段階で、パブリックコメント等、市民の意見をどれだけ汲み取ったのか。

答 パブリックコメントで寄せられた意見をもとに前文に加えさせていた。

問 常に、この条例の有効性を検証する為、一定期間ごとの見直しが必要ではないか。

答 産業振興対策委員会の主たる目的は産業振興

答 現状が激変し、条例改正が必要となった場合には考えるが、一定期間ごとの見直しについては今の段階では考えていない。

問 第9条に規定される産業振興対策委員会が大きな役割を担うものと考えられるが、他の条例で必要とされた委員会と検討されることになるが理念や、目的が異なるのではないか。

答 産業振興対策委員会の主たる目的は産業振興

仙北市産業 振興基本条例に 対する討論

基本条例と全く同じである。
企業誘致に関する産業振興条例の範囲内にとどまらず、さらに踏み込んだ政策的な提案もいただいている。
同一目的の委員会である。

賛成討論 市内における、農業者を含むすべての企業が困窮の状態にある中、市民所得を向上させ、仙北市全体が活発化する為には、この基本条例に定める理念が必要である。

早急に本条例を制定し、一日も早い産業の育成と発展に取り組むべきである。
反対討論 基本条例は広く全般的なものだとしていますが、本市独自の理念と具体施策を実施する意気込みもすっかり浮き出るようなものでなければならぬ。

この条例に欠けている

視点として①前文での現状に対する認識②基本的な計画③委員会のあり方④情勢に沿った見直しの規定
以上の点を補うべきであるので本案に反対。

採決結果 賛成3・
反対3 可否同数
委員長裁決により原案を否決

◎議案第86号 仙北
市基金条例の一部を
改正する条例制定に
ついて

内容は「仙北市肉用牛特別導入事業基金」の額を改めるものである。

◎議案第89号 仙北
市産業振興条例の一
部を改正する条例制
定について

内容は仙北市産業振興条例の題名を「仙北市企業立地促進条例」と改めるものである。

◎議案第90号 平成
23年度仙北市一般
計補正予算(第6号)

内容は常任委員会所管の補正予算である。

主なものは冬季交通対策費(除雪費)、6月の大雨の被害個所の復旧工事等に伴うものである。

◎議案第95号 平成
23年度仙北市水道事
業会計補正予算(第
2号)

内容は建設改良費の補正である。

◎請願第3号 米の
先物取引試験上場の
中止を求める請願

農家の状況把握、試験上場の仕組みを熟知する時間が必要で継続審査と決定。

◎採決の結果
議案第86号から議案第95号までの全議案は全会一致で原案を可と決定した。(荒木田 記)





平成22年度 病院事業会計決算 (千円)			
項目	角館病院	田沢湖病院	合計
医業収益	3,915,939	903,607	4,819,546
医業費用	4,169,755	1,058,444	5,228,199
医業利益	-253,816	-154,836	-408,653
経常利益	-9,067	-87,956	-97,022

平成22年度 温泉事業会計・水道事業会計 決算 (千円)		
項目	温泉事業会計	水道事業会計
営業収益	42,814	330,016
営業費用	32,047	284,254
営業利益	10,767	45,762
経常利益	10,826	12,533

平成22年度

企業会計決算審査



9月1日、平成22年度の企業会計決算審査のため特別委員会が設置された。9月15日、16日の2日間、慎重に審査が行われ、病院事業会計、温泉事業会計、水道事業会計の各決算について認定された。

平成22年度 病院事業会計決算認定について

質問 両病院ともに、累積赤字に陥っている。今後の自治体病院としての方向性について伺う。

答弁 仙北市の人口規模からすると、病院を2つ経営すること自体が厳しい。医師確保という課題もあり、現段階では、田沢湖病院の救急再開も困難な状況である。病院経営の現状は、人口減少、医師不足を始め、課題が山積している。しかし、地域の医療を守るという観点から、当面は2つの病院を維持しながらも、将来は両病院の機能のすみ分けも検討せざるを得ない。

質問 民間病院の一般的な人件費率は50%程度と言われているが、角館、田沢湖両病院の人件費率はそれと比較して相当高い。どうとらえるか。

答弁 民間病院の一般的な人件費率は50%程度と言われているが、角館、田沢湖両病院の人件費率はそれと比較して相当高い。どうとらえるか。

〈委員会の意見〉

- 1 自治体病院は、市民の生命を守るという崇高な責務を負っていることから、両病院を病院として存続できるよう努めること。
- 2 医師の確保対策に最大限の努力をすること。
- 3 患者へのサービス向上並びに患者や住民の意向の把握に努めること。

答弁 企業経営からすれば、ボーナスや給与等の人件費も節減の対象となるが、現時点ではスタッフのモチベーションも考慮し、事務職の削減や看護師の再雇用により、その抑制に努めている。

質問 病院事業会計において、繰越調定の乖離問題は無いものと理解してよいか。

答弁 繰越調定の乖離はない。

平成22年度 温泉事業会計決算認定について

質問 今後の源泉確保と給湯施設老朽化の対策として具体的な方針や計画は策定しているのか。

答弁 カラ吹2号源泉の修復と新規の温泉源の掘削を予定している。現在は、関係機関の同意を得るため交渉中である。総額で約4億円の事業費を見込んでおり、同意が得られれば、次年度からでも予算措置したいと考えている。

質問 震災後において、全国各地の温泉で湯量に変化が生じている。本市の現状はどうか。

答弁 一時的な温度の上昇が見られたものの、湯量の変化は確認されていない。

平成22年度 水道事業会計決算認定について

質問 現段階での経営状態を踏まえ、将来の未普及地解消対策や水道事業の在り方について伺う。

答弁 財政的には、設備投資等による若干の厳しさはあるものの、現時点では健全な経営と認識している。

今後、未普及地に対し事業拡張を続けた場合、深刻な財源不足も懸念される。事業拡張にあたっては、加入率に基づく採算性も判断基準の一つではあるが、民家の少ない地域でも水道の需要があれば、地域の実施を判断せざるを得ない。

質問 水道事業会計において、繰越調定の乖離問題は無いものと理解してよいか。

答弁 調査確認したところ、繰越調定の乖離はない。

(高橋 記)

企業会計決算審査特別委員会

委員長	安藤 武	阿部則比古
副委員長	高橋 豪	小田嶋 忠
委員	門脇 民夫	田口 喜義
	黒沢 龍己	稲田 修
	青柳宗五郎	
	高久 昭二	

市立角館総合病院 移転建設の用地案示される

「市立角館総合病院建設整備用地選定検討委員会」の答申結果

市内医師を始めとするメンバーで構成する、用地選定委員会が4地区を市へ答申

- 1、岩瀬下夕野地区（角館町岩瀬下夕野地内）
- 2、旧角館東小学校敷地（角館町外ノ山地内）
- 3、落合地区（角館町西田地内）
- 4、秋田県立角館南高等学校敷地（角館町小館地内）

9月議会において市当局は、角館総合病院移転建設のための用地について、市内医師を始めとしたメンバーで構成される「市立角館総合病院建設整備用地選定検討委員会」の答申結果を公表した。これまで委員会を計5回開催し、病院建設用地に関して調査、議論の結果、用地選定委員会は病院建設用地を上記の4地区に絞り込んだ。これを受け、今後市議会としても、市民を始め利用者の利便性や安全性、まちづくりや将来像を含めた新病院の在り方など、様々な角度からの検証を行う必要がある。市立角館総合病院は当初平成28年度の開業予定であったが、門脇市長が昨年度、平成26年度に開業を前倒しすることを表明していた。この後、慎重かつ迅速な議論が求められる。

市立角館総合病院建設候補地選定に関する総括表（用地選定委員会答申書より抜粋）

地区名	建設候補地検討内容	検討結果
落合地区 (落合公園向い)	市道岩瀬北野線沿いであり、田沢湖・西木方面及び協和・中仙方面からのアクセスはよく利便性はある。(岩瀬北野線の横町方面への延伸事業が今年度より実施されている。)地盤は安定している。第2種低層住居専用地域であり、高さ制限及び建築物の用途制限があるが、候補地選定に際しては見直し或いはこの条件下での建設が可能である。	候補地として最も適している。
角館南高校敷地	市街地に近く、交通アクセスも公共交通等の運行もあり利便性の高い地区である。地盤は安定している。現在、角館高等学校との統合が検討されている。統合時期等については公式な決定がされていないが、27年度開校を目標とする検討がなされている。	候補地として最も適している。
旧角館東小学校敷地	角館駅、羽後交通角館営業所から近く、車では、田沢湖・西木方面及び、中仙方面からは国道105線よりアクセスでき利便性はある。市有地であり用地費については無償若しくは安く取得でき、建設費の削減につながる。現校舎、体育館の解体をしなければならない。(設置条件等の廃止が必要)敷地については、建物敷地、グラウンド敷地の高低差があり敷地造成工事にある程度の工期が必要となる。市街地より貴台にあるため勾配のきつい坂道を登らなければならない、冬期間の通行に難がある。	候補地として適している。
岩瀬下夕野地区 (玉川河川敷周辺)	国道105線より、市道岩瀬下夕野1号線及び上野大徳山線を利用しアクセスできる利便性の高い地区である。(一部幅員減少)都市計画道路岩瀬北野線の延伸が敷地を横断する形で計画されている。国道より少し入った土地であるため、他の民有地と比べ用地費の軽減は図られる可能性はある。地盤は安定しているが、一部砂利採取のため軟弱な箇所があることが予想される。 仙北市のハザードマップによると、この地区は大雨時に玉川からの浸水の可能性があることが予想されているが、現在河川改修工事が計画されている。	候補地として適している。

市立角館総合病院建設整備用地検討委員 名簿

役職	氏名	備考
委員長	鬼川 温	大曲仙北医師会角館ブロック会 会長
副委員長	赤倉 羊子	仙北市結核予防婦人会 会長
委員	石井 伸明	大曲仙北医師会角館ブロック会 副会長
委員	川合 ティ	前仙北市結核予防婦人会 副会長
委員	藤枝知恵子	仙北市結核予防婦人会 副会長
委員	市川 晋一	市立西明寺診療所 所長
委員	伊藤 貞男	市立神代診療所 所長
委員	佐々木英人	市立田沢湖病院 院長
委員	西野 克寛	市立角館総合病院 院長
委員	後藤 薫	市立角館総合病院 副院長
委員	伊藤 良正	市立角館総合病院 副院長
委員	鈴木 一正	市立角館総合病院 副院長



議会のうごき

所得税還付等の問題について 議会では、議会議派代表者 会議等に委ねる。

所得税還付等の問題について、これまで門脇市長は9月で調査局は調査最終する発言をしている。しかしながら9月の協議会において、調査継続の発言を聞いて議会議派代表者では、何らかの対応が必要であるとの確認をする。ただしあくまでも市長の考えはそうであっても議会の権能は議決権が主であるため調査の継続を見守るしかできない。今後市長に対しては、12月にこたわらず可及的速やかに原因究明と市民への説明責任を果たすことと再発防止策を求める。議会の対応は今後代表者会議等に委ね、その開催時期は議長に一任をすることを決定する。

人事案件

○人権擁護委員に草薙氏
任期満了に伴う人権擁護委員(9期目)の任命案を9月27日の本会議に於いて全会一致で同意した。

草薙 紀雄氏(66)
住所 仙北市角館町4

(談) 夫婦、親子間の人権課題や隣人間の争い等に見られる心の歪みに対して相談されやすい委員活動を展開したい。

○固定資産評価審査委員
に三氏
進藤 敏夫氏(62)
住所 仙北市角館町

元野 英雄氏(73)
住所 仙北市田沢湖

本庄 護氏(69)
住所 仙北市西木町



控室

仙北市として震災から学ぶもの

地震学者によれば、地震が明日来るのか千年後に来るのか全く分からないという。今出来ることは過去の地震を調査検証し、将来、来るかもしれない地震に備

えることがかもしれないという。この度の3・11地震は未曾有の地震といわれながら実は平安時代にも(869年)貞観(じょうがん)地震は、白岩付近に大きな被害があった。この陸羽地震の断層はさらに抱き返りから中生保内に記述されていたが最近では、この地域の被害は少な

かったと言われている。ある地震研究者によれば、もし次に地震が起るとすればこの断層が潜り込んでいて陸羽地震で被害の少なかつた抱き返りから中生

保内にかけての辺かも知れないという。一方、1423年、本荘に地震があったと理科年表に記述されていたが最近では定かでないため抹消されていることは、

口の温度が次第に上昇してきているのも気になる。だが、自然災害なのでいつ起こるかとか必ず起こるといふ保証もない。私達がこの仙北市でやることは、

①上記地域の家具を固定すること。
②行政と市民が駒ヶ岳火口の温度上昇に関心を示し監視を怠らないこと。
③地震や火山に対する研究者のアドバイスについて真摯に耳を傾けることではないだろうか。

(狐崎 記)

編集後記

一般質問初日、本会議場に入ると、はなやかな女性の声に思わず傍聴席を見ると多くの若い女性の方々が傍聴席前列に陣取っている。傍聴席前の最後列の議員は心なしか緊張して見える。一般質問が始まると傍聴席は静まり返り、議員の質問、市長の答弁一句、一句に熱心に耳を傾けている。女性の方々は秋田市にある日本赤十字秋田看護大学の学生で、社会研修の一環として市議会の傍聴に訪れていた。市議会が市発展について市当局との活発な議論をして、若い女性に限らず何時も市民の方々に傍聴に来ていただけるような市議会にしなければと思う。

(門脇 記)

